

湯浅町の結果について

湯浅町教育委員会

はじめに

平成30年4月17日（火）、全国の小学6年生・中学3年生を対象に学力・学習状況調査が行われ、町内のすべての小・中学校が参加しました。湯浅町内小・中学校における学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

文部科学省は、本調査の目的を以下のように示しています。

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

湯浅町においても、教育委員会では、町内各小・中学校の学力の状況を把握するため、全国学力・学習状況調査に加え、独自の標準学力調査（小学校全学年、中学校1・2年）の実施や、学校訪問による指導、各小・中学校の学力の状況や学力向上を推進する取組を交流したり町としての今後の取組の方向性について協議したりする学力向上推進委員会を開催するなど、これまでの取組の成果と課題を検証するとともに、町全体の学力が向上するために何が必要かを考え、「湯浅の底力を上げる」ために、様々な取組をすすめています。

各小・中学校においても、教員一人ひとりが全国学力・学習状況調査をはじめ、町独自の標準学力調査や県の学習到達度調査、日々の学習状況などから児童生徒の実態を把握・分析することに心がけ、学校全体でめざす方向性を共有しながら、学力向上に向けてPDCAサイクルを確立し、計画的に取り組むよう努めています。児童生徒一人一人の学習状況の的確なみとり、校内授業研究の充実、授業の校長・教頭や職員相互による参観による教員の授業力向上、様々な問題等を活用して強みをさらに伸ばしたり、課題の見られるところを学び直したりする基礎学習や補充学習の充実、自主的な学習の定着を図る家庭学習の充実などに取り組み、児童生徒に対する学習指導の一層の充実や、学習状況にみられる課題の改善を日々すすめています。

なお、文部科学省は、「全国学力・学習状況調査の結果については、学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であること」も明示しています。湯浅町教育委員会及び各小・中学校では、様々な学力調査の結果から、これまでの取組の成果や課題を分析し、今後の学習指導の改善やさらなる充実に活用することはもちろんのこと、こうした学力調査の結果が学力のすべてを表しているとは限らないということもきちんと認識しながら、児童生徒の学力を多角的・多面的な目でとらえ、「湯浅の底力を上げる」ため、教育の一層の充実に努めてまいります。

平成30年 9月 湯浅町教育委員会

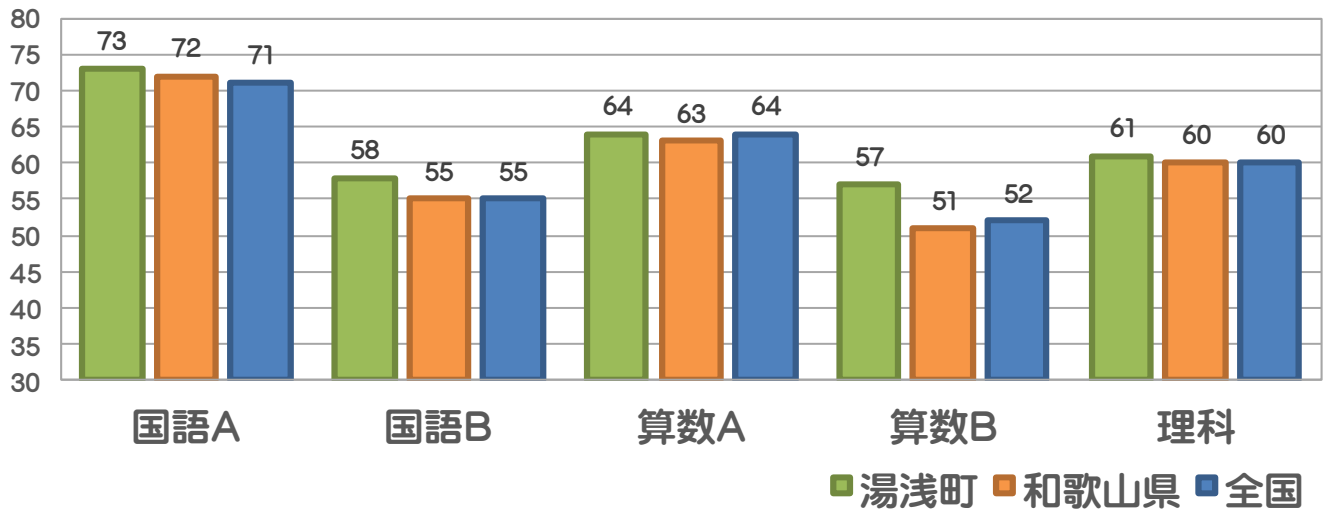
「国語」、「算数・数学」の A問題 と B問題 について

「A問題」主として「知識」に関して、基礎的・基本的な力がどれくらい身に付いているのかをみる問題です。
「B問題」主として「活用」に関して、学習した内容を実生活の中で活用する力がどれくらい身に付いているのかをみる問題です。

※ 理科の問題については、A問題とB問題を統合した内容となっています。

小学6年「国語」「算数」「理科」の結果

湯浅町全体の傾向 平均正答率 (%)



全国、和歌山県の平均正答率と比べて、算数A、理科ではほぼ同程度かやや上回り、国語A・B、算数Bでは大きく上回っています。着実に学力が身につけている様子がうかがえます。また、これまでの調査において課題が見られること多かった「記述式で回答する」問題については、すべての教科で全国平均正答率を上回りました。

小学6年「国語」の傾向

全国平均正答率との差 (%)	国語A	国語B
国語への関心・意欲・態度		◎6.2
話す・聞く能力	1.8	2.8
書く能力	2.8	◎4.9
読む能力	0.5	◎3.5
言語についての知識・理解・技能	◎3.1	

◎3%以上高い ▼3%以上低い

国語A問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果がみられた問題

- 書く能力
「文中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」
「物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する」
- 言語に関する知識・理解・技能
「漢字を文の中で正しく使う」

▼特に課題がみられた問題

- 言語についての知識・理解・技能
「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」
- 読む能力
「登場人物の心情について、情景描写をもとに捉える」

☆特に短い言葉で回答する「短答式」問題
☆物語の構成の工夫や、説明の仕方の工夫を正しく捉えること
☆昨年度、課題の見られた漢字を書くこと

★敬語を使う場面や相手によって尊敬語・謙讓語・丁寧語を使い分けること
★物語文の情景描写など細かな表現を読み取ること

国語B問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果が見られた問題

- 話す・聞く能力、書く能力
「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」
- 書く能力
「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」
- 読む能力、書く能力
「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」

- ☆目的や意図・条件に応じて文章を書くこと
- ☆相手の考えを聞きながら自分の考えをまとめたり適切に表現したりすること
- ☆目的に応じて読むこと

★全国平均を上回っているが、正答率自体が低い問題があること

小学校「国語」の学習指導にあたって

課題がみられた点を中心に、以下のような指導の充実を図ります。

□「言語についての知識・理解」

→ 敬語について、生活場面と結びつけ、積極的に活用する場面を想定した指導の充実。

□「書く活動」・「話す・聞く活動」

→ 読み手や聞き手を意識し、伝えたいことや目的・意図をしっかりとらえたうえで内容を考え、文字数などの条件にあてはまるように書いたり話したりする力をさらに伸ばす指導の充実。

□「読む活動」

→ 文章について部分的な理解だけでなく全体的な内容の理解を図る指導の充実。

小学6年「算数」の傾向

全国平均正答率との差(%)	算数A	算数B
算数への関心・意欲・態度		
数学的な考え方		◎6.4
数量や図形についての技能	0.0	
数量や図形についての知識・理解	0.3	▼-3.6

◎3%以上高い ▼3%以上低い

A問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

- 数量や図形についての技能
「 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求める」
- 数量や図形についての知識・理解
「1に当たる大きさを求める問題場面では、除数が小数である場合でも除法を用いることができることを理解し、式を選ぶ」
「小数の除法の意味について理解し、 $12 \div 0.8$ で表される問題を選ぶ」

- ☆計算の意味を理解すること
- ☆角の大きさを求めること
- ☆円周率の求め方を理解していること
- ☆小数の計算ができること

▼特に課題がみられた問題

- 数量や図形についての技能
「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す」
- 数量や図形についての知識・理解
「十進位取り記数法で表された数の大小について理解し、□にあてはまる数を答える」
「直径の長さと円周の長さの関係について理解し、直径が2倍になると円周が何倍になるか答える」

- ★単位量当たりの大きさを求めて比べたり数直線で表したりすること
- ★直径と円周の関係を理解すること
- ★□の中に数を入れ大小を比べること
- ★同じ「1に当たる大きさ」の問題でも、答えを求める式の意味については正答率が高く、数直線上に表すことについては正答率が低いこと
- ★文と式、図や表などを結びつけ、トータルに考えること

B問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

○数学的な考え方

- 「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述する」
- 「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する」
- 「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現したり、表現方法を適用して記述したりする」
- 「折り紙の数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け、根拠を明確にして記述する」

☆数や文章、図、表などによって与えられた情報を示された考え方に関連付けながら論理的に考えること
 ☆数学的に考えた道筋に沿って記述すること

▼特に課題がみられた問題

●数量や図形についての

知識・理解

- 「合同な三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出すことができる」

★問題文に示された条件に合うような図形を見出すこと

★問題文をしっかりと読むこと

小学校「算数」の学習指導にあたって

課題がみられた点について、以下のような指導の充実を図ります。

- 「単位量当たりの大きさ」「全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味の理解」
 - 「基準量」や「比較量」を基にした「割合」の意味や「数直線上の単位量当たりの大きさ」を数学的な活動を通して実感的に理解できるような指導の充実。
 - 生活場面で積極的に「単位量当たりの大きさ」などの学習内容を活用する機会の充実。
- 基礎的な力が身に付いていれば早く回答できるような選択問題では、概ねよい結果がみられたが、問題文と数、図、表などを関連付けながら考えることに課題
 - 数学的な活動をより一層充実させるとともに、自分が立てた式や出した答えと、問題文・図・表と結びつけ、さらに理解を深めることができるような指導の充実。
 - 数学的な用語を用いて方法や理由を説明したり、問題文や図などにじっくりと向き合う機会の充実。

小学6年「理科」の傾向

全国平均正答率との差	理科
理科への関心・意欲・態度	-1.2
科学的な思考・表現	0.9
観察・実験の技能	◎5.5
理科についての知識・理解	▼-6.0

◎3%以上高い ▼3%以上低い

全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

○科学的な思考・表現

- 「電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、結果を見通して、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ」
- 「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことをふまえ、食塩を水に溶かした時の全体の重さを選ぶ」

○観察・実験の技能

- 「ろ過の適切な操作方法について、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ」

☆実験の操作方法を理解すること

☆予想が確かめられた場合に得られると予想できる結果を見通して実験を構想すること

☆2つのものを実験を通して比べて見分けたり実験から分かったことを適用して重さを求めたりすること

▼特に課題がみられた問題

●理科についての知識・理解

「腕を曲げることでできる骨と骨のつながり目を表す言葉を書く」

●科学的な思考・表現

「上流側の雲の様子や雨の降っているところと下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について、言えることを選ぶ」

「実験結果から、電流の流れ方について、考え直した内容を選ぶ」

★「関節」や「堆積」といった理科の専門用語や概念を理解すること

★複数の情報を関連付けながら分析して考察すること

★実験結果から実験を見直し、より妥当な考えに改善すること

小学校「理科」の学習指導にあたって

課題がみられた点について、以下のような指導の充実を図ります。

□理科の専門用語や概念の理解に課題がみられた。

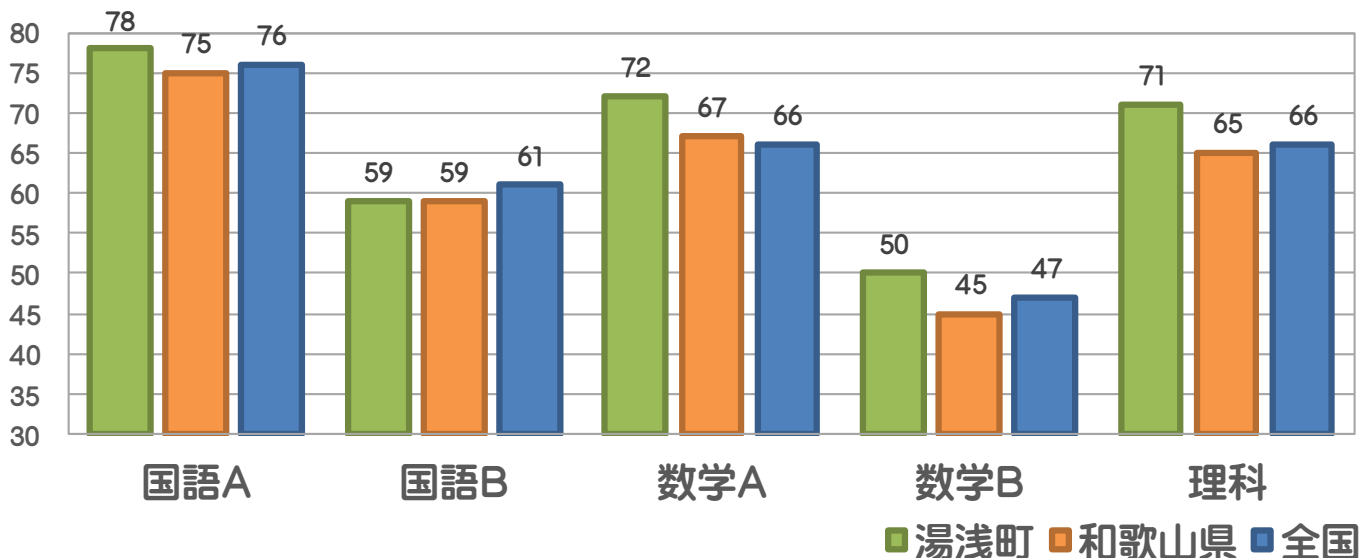
- 専門用語を学習する際、言葉だけではなく概念を体験的に理解できるような指導の充実。
- 実験や観察の結果をまとめたり、考えられることを書いたりする際には、専門用語を積極的に使ったり、振り返り時に確認したりするなどして、一層の定着を図る。

□科学的に思考する力に課題がみられた。

- 実験や観察を行う際、見通しを立てながら予想したり、予想と違う結果が出たりグループによって違う結果が出た場合にもどうして違うのか、本当はどうなのかを関連付けて考えたりすることができるような指導の充実。

中学3年「国語」「数学」「理科」の結果

湯浅町全体の傾向 平均正答率 (%)



全国や和歌山県の平均正答率と比べて、国語A、数学A・B、理科で、全国平均正答率を上回っています。一方、国語Bについては和歌山県の平均正答率とほぼ同じですが、全国平均正答率よりは下回っています。基本的な学力の定着がみられ、数学においては活用力の向上もみられますが、国語の活用力については課題がみられます。無回答率については、すべての調査において全国・和歌山県の無答率に比べてかなり低く、最後まで粘り強く取り組んでいる様子がうかがえます。

中学3年 「国語」の傾向

全国平均正答率との差 (%)	国語A	国語B
国語への関心・意欲・態度		1.8
話す・聞く能力	1.8	1.9
書く能力	▼-3.2	-1.4
読む能力	1.5	▼-4.5
言語についての知識・理解・技能	◎3.1	0.2

◎3%以上高い ▼3%以上低い

A問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

○言語についての知識・理解・技能

- 「文脈に即して漢字を正しく書く」
- 「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」
- 「接続詞の働きについて適切なものを選択する」

○読む能力

- 「登場人物の言動を読み、その説明として適切なものを選択する」

○書く能力、話す・聞く能力

- 「図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する」
- 「話し合いの中で確認しなければならないことについての司会者としての発言を書く」

★漢字の読み書き、語句の意味を理解すること

★書かれた文章の構成を捉えること

★登場人物の言動を読み取ること

★話し合い活動における発言内容を、文脈に即して自分なりに書くこと

▼特に課題がみられた問題

●言語についての知識・理解・技能

- 「慣用句の意味を理解する（心を打たれる）」
- 「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に扱う（せきを切る）」

●書く能力

- 「2つの意見の内容を一文で書き加える」
- 「意見文の下書きに一文を書き加える意図で適切なものを選択する」

★語句について、文脈に即して意味を理解すること

★書かれた文章の意味を考えて書き加えたり、推敲したりすること

B問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

○話す・聞く能力

- 「話の展開に注意して聞き、必要に応じた質問を考えて書く」

★話し合いの中で質問したり司会者として発言したりすることを考えること

▼特に課題がみられた問題

●読む能力

- 「グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する」
- 「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」
- 「文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する」

★文章の種類や内容、読み取る対象（グラフ、文章全体、会話文）によって読み取り方を使い分けること

★文章を全体として読み、内容を捉えること

中学校「国語」の学習指導にあたって

課題がみられた点について、以下のような指導の充実を図ります。

□「書く能力」

- どの教科でも「記述式」で答える問題や、自分が質問や発言をしたらという仮定で書く問題では、全国平均正答率を上回っていたことから、書くことへの意欲がある一方で、書いた文章や書かれた文章についてさらに書き加えたり、見直して推敲したりすることに課題があるため、書く際に、書き加えることを考えたり文章を見直して考える活動の充実を図る。

□「読む能力」

- 文章中の限られた場面の表現からは登場人物や情景について想像することができるが、文章全体を捉えてその中の一つの表現の意味を捉えたり、会話文から登場人物の様子を想像することなどの課題があるため、「読み方」に重点を置いた指導の充実を図る。

中学3年 「数学」の傾向

全国平均正答率との差（％）	数学A	数学B
数学への関心・意欲・態度		
数学的な見方や考え方		2.5
数学的な技能	◎7.4	◎5.8
数量や図形についての知識・理解	◎5.7	

◎3%以上高い ▼3%以上低い

A問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

○数学的な技能

- 「数量の大小関係を不等式で表す」
- 「等式の性質を用いて、目的に応じて変形させる」
- 「絶対値の意味を理解する」 「一次関数について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求める」

○数量や図形についての知識・理解

- 「ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している」
- 「連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す」
- 「グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ」
- 「底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱の体積の関係について正しいものを選ぶ」
- 「五角形の内角の和の性質を理解する」 「多数回の思考の結果から得られる確率の意味を理解する」

★「数学的な技能」「数量や図形についての知識・理解」ともに、とてもよい結果
★基礎的な力が着実についている

▼特に課題がみられた問題

●数学的な技能

- 「数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る」

●数量や図形についての知識・理解

- 「長方形で成り立ち、ひし形でも成り立つことを選ぶ」
- 「対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ」

★4つの選択肢の中から、2つの条件にどちらも合うのか、一つだけ合うのか、どちらも合わないのかを選択すること
★条件の意味を吟味すること

B問題 全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

○数学的な見方や考え方

- 「計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める」
- 「平行四辺形の外側に2点を取り、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直す」
- 「グラフで、列車のすれ違いが起こる地点からの道のりを求める」

○数学的な技能

- 「与えられた情報から必要な情報を選択し、割合を求める」

★与えられた情報から必要な情報を選択して、適切に処理すること
★グラフから必要なことを読み取り、数学的に説明すること
★変えられた条件に対応して、証明を書き直すこと

▼特に課題がみられた問題

●数学的な見方・考え方

- 「平行四辺形を正方形に変えた時の四角形がどのような四角形になるかを説明する」

★証明等、記述で答える際、根拠となる条件を押さえること
★結論を明確に述べること

中学校「数学」の学習指導にあたって

課題がみられた点について、以下のような指導の充実を図ります。

□条件が複数ある場合に、それぞれの条件を吟味して課題に向き合うこと

- 複数の条件について、それぞれ条件のうちどの部分が問われていることに当てはまるか、あるいは当てはまらないかについて、一つ一つ丁寧にみて判断する機会を充実させる。どの教科にも当てはまることであり、教科の枠を超えて取り組む必要がある。

□記述回答の際、根拠を押さえきれていなかったり、結論を明確に記述していなかったりすること

- 問われていることは何か、課題解決の結論は何かということについて、より明確に押さえることを重視する。特に、学習内容や学習課程を振り返る時間の確保と振り返りの充実を図る。

中学3年 「理科」の傾向

全国平均正答率との差 (%)	理科
理科への関心・意欲・態度	◎13.6
科学的な思考・表現	◎6.5
観察・実験の技能	◎6.5
理科についての知識・理解	◎8.0

◎3%以上高い ▼3%以上低い

全国平均正答率と比較して

◎特によい結果があらわれた問題

○科学的な思考・表現

- 「1つの要因を変えると、その他にも変わる可能性のある要因を指摘する」
- 「風向きの観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用する」
- 「化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる」
- 「反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画する」
- 「実験や探究の課程を振り返り、新たな問題を見出す」

○観察・実験の技能、理科についての知識・理解

- 「実験結果を示した表から電流の値を読み取り、読み取った値から、オームの法則を使って、抵抗の値を求める」

☆実験の条件の変化や2つの実験結果を比べて答えること

☆実験の方法を考えること
☆結果から値を読み取り、習った法則を用いて抵抗値を求めること

▼特に課題がみられた問題

●実験や観察の技能

- 「ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘する」

●科学的な思考・表現

- 「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する」

★実験器具の使い方や実験の基本的な条件の設定を押さえること

★生活場面を見立てた実験で植物の蒸散以外に湿度が上がった原因を挙げること

中学校「理科」の学習指導にあたって

課題がみられた点について、以下のような指導の充実を図ります。

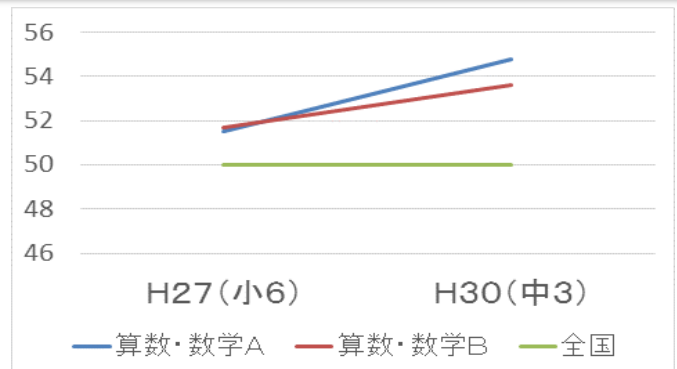
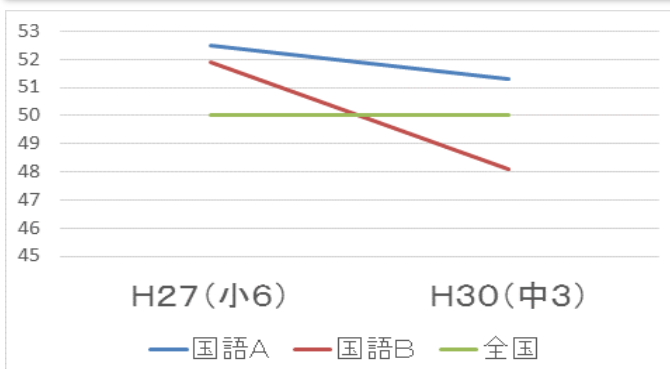
□実験器具の使用法や基本的な実験条件の設定について課題がみられた。

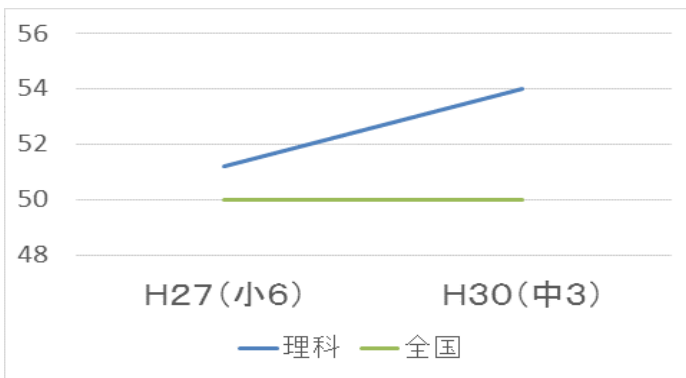
- 実験や観察を行う際、器具の名前や使用法、そろえる条件や変える条件について、全員で確認するなど、目的意識を強くもって実験や観察を行い、より基礎的な内容の定着の徹底を図る指導の充実。

□発展的に扱う問題に課題がみられた。

- 実験や観察の結果から十分に考察を行うとともに、実際の生活場面や生活場面を見立てた実験などに結び付けて考える機会の充実。

H27(小6)とH30(中3)の結果を比べてみると…





上のグラフは、今年度の中学校3年の平均正答率を、小学校6年時（平成27年度）と比べたものです。全国平均正答率を50（緑色の線）の基準量として、各調査の結果を算出しています。

- 「国語A」＝ 小6時、今年度ともに全国平均正答率を上回っていますが、上回り具合がやや低くなっています。
- 「国語B」＝ 小6時は全国平均正答率を上回っていたのが、今回は下回っています。
- 「算数・数学A及びB、理科」＝ 小6時には全国平均正答率を少し上回っていましたが、中3時には全国平均正答率を大きく上回り伸びを見せています。

☆ 国語科では、全国平均正答率を上回っていた小学校時よりも下がった印象を受けますが、中学校では、小学生時より国語科で見られた課題が、さらに表面化してきたことを受け、他の教科においても同様にみられることを共通理解したうえで、現在も課題を克服するために取組を継続しています。

数学や理科では、地道に積み重ねてきたことが、中学校の取組でより一層満足できる結果として出た形です。このように、義務教育9年間の系統の中での学年ごとの指導の重点を明確にしなが「何を学んだか」「何を身に付けたか」を意識した取組を今後も進めていきます。

児童質問紙調査・生徒質問紙調査の結果から

学習意欲、学習方法、学習環境、生活習慣等のいろいろなことをアンケート形式で答える質問です。
 (例えば)算数の授業は好きですか、授業の内容はどのくらい分かりますか、就寝時間や起床時間、読書時間、勉強時間の状況など



小学6年の結果から

地域とのかかわりや自主性・協調性について

住んでいる地域の行事への参加や、授業における地域との関わりについて前向きな回答が高く、地域学習を意欲的に行い、地域の方々と積極的に関わっている様子がうかがえます。

「自分には、良いところがあると思いますか」については全国平均を上回り、自信をもち学校生活に取り組んでいる様子もうかがえます。

授業の話合いにおいては、自分の意見を話したり友達の意見を聞いたりすることを積極的に行い、自分の考えが深まったという実感が持てている様子がうかがえます。学校の授業では、話合いを中心に協働的な学習が進められていることが分かります。

「家で宿題をする」「予習・復習をする」「計画的に勉強」については、全国平均正答率を上回る結果が出ており、前向きな回答が増加してきています。ここでも、自主的に学習に取り組もうとする姿勢がうかがえます。

中学3年の結果から

地域とのかかわりや自主性・協調性について

地域学習や地域の方々との関わりについて前向きな回答がかなり多く、地域学習を意欲的に行い、地域との関わりを実感しながら意欲的に取り組んでいる様子がうかがえます。

「自分には、良いところがあると思いますか」では全国平均を下回っており、日ごろの意欲的な取組を生徒たちの自信にさらにつなげ、学校生活をより充実させていく必要があります。

授業では、友達との意見交流を積極的に行い、それによって自分の考えが深まった・広がったという実感を持てている様子がうかがえます。日ごろから自分の意見を話したり友達の意見を聞いたりすることが積極的に進められていることが分かります。

「家で宿題をする」「予習・復習をする」「計画的に勉強」については、全国平均正答率を大きく上回っています。ここでも、自主的に学習に取り組もうとする姿勢がうかがえます。

「小学6年」の結果

質問項目	湯浅町	全国	差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	80.9	62.7	18.2
授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。	87.3	74.4	12.9
自分には、良いところがあると思いますか	87.2	84.9	2.3
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	86.1	77.7	8.4
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	74.6	77.0	-2.4
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	92.6	88.8	3.8
家で、自分で計画を立てて勉強していますか	69.1	67.6	1.5
家で、学校の宿題をしていますか	97.9	97.1	0.8
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	70.3	62.6	7.7
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか *「全くしない」割合	0.0	2.5	-2.5
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか *「全くしない」割合	33.0	18.7	14.3

* 当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた割合

「中学3年」の結果

質問項目	湯浅町	全国	差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	52.8	45.6	7.2
授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。	90.8	68.7	22.1
自分には、良いところがあると思いますか	74.7	78.8	-4.1
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	86.2	76.3	9.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	72.4	74.2	-1.8
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	91.9	90.3	1.6
家で、自分で計画を立てて勉強していますか	65.5	52.1	13.4
家で、学校の宿題をしていますか	98.9	91.6	7.3
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	62.1	55.2	6.9
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか *「全くしない」割合	0.0	4.9	-4.9
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか *「全くしない」割合	42.5	32.9	9.6

* 当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた割合

家庭での過ごし方について

○基本的な生活習慣について

「早寝・早起き・朝ごはん」が大切とよく言われます。「決まった起床時間に起きる」ことについては全国平均を上回っていますが、「決まった就寝時間に就寝する」ことについては全国平均を下回る結果が出ました。

この傾向は、小学校中学校ともに、ここ何年か続いてみられる傾向です。基本的な生活習慣のさらなる定着を図っていくことが重要です。

○家庭学習や読書について

平日の勉強の時間について、「全くしない」割合が0%と、全国平均よりも下回り、家庭学習の習慣がついていることがよくあらわれています。

しかし一方で、平日の読書時間については、「全くしない」割合が全国平均よりもかなり上回り、読書力を上げることが大きな課題であることが分かります。

学校では、自主的な学習や読書の取組を進めていますので、自分が取り組んでいることにさらに自信をもち、より一層意識を高めていくことが必要です。

家庭での過ごし方について

○基本的な生活習慣について

「早寝・早起き・朝ごはん」が大切とよく言われます。起床時間については全国平均を上回っていますが、就寝時間に関する質問では全国平均を下回っており、規則正しい就寝についてより課題があることが分かります。大きな差ではありませんが、やはり、基本的な生活習慣のさらなる定着を図っていくことが重要です。

○家庭学習や読書について

平日の勉強時間については、「全くしない」割合が0%で、全国平均と比べてもかなり低くなっており、自主的に家庭学習に取り組む習慣がかなりついている様子がうかがえます。

しかし一方で、小学校と同様に、平日の読書時間については、「全くしない」割合が4割を超え、全国平均と比べてもかなり高くなっています。読書をはじめとして、家庭で過ごす時間の使い方について、目的意識をより強く持って、改善を進めていく必要があります。